

成人看護学急性期実習

責任者・コーディネーター	共通基盤看護学講座 佐藤 奈美枝 准教授		
担当講座・学科(分野)	共通基盤看護学講座		
対象学年	3	区分・時間数	実習 112.5 時間
期 間	後期		
単 位 数	3 単位		

・学修方針（講義概要等）

成人看護学概論や成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ、成人看護学演習Ⅰ・Ⅱおよび既習の科目で学んだ知識・技術を基に、臨床場面での実習を行う。成人期にある患者およびその家族等を急性期の臨床の現場で受け持ち、看護過程を通して対象理解を深める。そして、臨床の看護師の援助を受けながらエビデンスに基づく看護ケアを実践する。その際、臨床場面を通して、看護師が優先順位や時間管理を考えながら臨床判断や問題解決を行う場面を見て、学びを深める。

・教育成果（アウトカム）

クリティカルケア及び周手術期の看護過程を展開できる。クリティカルケア及び周手術期にある患者へ質の高い看護を提供するために必要なコミュニケーションスキルを体得できる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマ・ポリシー：2, 3, 4, 5, 6, 7

・到達目標（SBO）

1. 成人看護方法論Ⅱ及び成人看護学演習Ⅱで学んだ、クリティカルケア及び周手術期の看護を実践するにあたって必要とされる知識・技術を臨床看護師の指導の下で可能な範囲で実際の患者に提供し、評価することができる。
2. クリティカルケア及び周手術期の看護過程を展開できる。
3. 成人期のクリティカル及び周手術期にある患者やその家族の特徴について、アセスメントした内容を踏まえ、その時の臨床判断・問題解決の内容、優先順位・時間管理の決め方について述べることができる。

・授業日程

【実習】

日程	講座(学科) 担当教員	授業内容/到達目標
各グループの実習期間は、実習要項等に記載する。	共通基盤看護学講座 佐藤 奈美枝 准教授 小坂 未来 講師 武田 邦子 講師	1. 周手術期の患者を受け持ち、手術を受ける患者の看護過程を展開する 2. 手術室における看護実践を学ぶ 3. 集中治療室における看護実践を学ぶ ・実習評価（ルーブリック評価）表の全項目においてレベル4が達成できる（実習評価表参照）

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	看護学テキストNICE 成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護 第3版	林直子他編著	南江堂	2021
教	看護学テキストNICE 成人看護学 急性期看護Ⅱ 救急看護 クリティカルケア 第3版	林直子他編著	南江堂	2021

・成績評価方法

実習評価表に沿って採点を行い、成人急性期看護過程の展開を実習記録に記述すること72点、実習への取り組みとしての行動評価28点、合計100点により評価する。（実習評価表参照）

・特記事項・その他

【事前事後学修の具体的内容及び時間】

受け持ち患者の治療スケジュールに沿って、翌日実施予定の処置やケアについて最低30分以上の事前学修を行うこと。

実習記録の各様式は、事前にWebClassから適宜ダウンロードし必要な枚数を印刷すること。

合同プレゼンテーションのパワーポイント資料と課題レポートは、期限までにWebClassにアップロードすること。

WebClassにアップロードされている、実習オリエンテーションの資料や動画を各自視聴して臨むこと。

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】

毎朝提出される前日の実習記録に助言または、コメントを付して返却する。

毎日の学生カンファレンスに参加し、助言を与える。

合同プレゼンテーションの場で、個々の学びをまとめたものを発表し、質疑応答等の意見交換後に臨床指導者や教員から総評等のフィードバックを受ける。

※臨地実習中止で学内実習になった場合は、病棟と大学を Zoom 等をつなぎ、遠隔での臨床講義や臨床スタッフと質疑応答をすることで、臨床判断を学ぶ。

【保健師の助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】
看護師（別表 3）：臨地実習 専門分野Ⅱ 成人看護学

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習要項に記載する。			